情報処理センターの思い出

今　西　範　和※

平成３年４月１日付けで「情報処理センター事務室課長を命ずる」の辞令を拝命したとき、私の心情は不安でいっぱいでした。その当時、私が情報処理センターに関して知っていたことと言えば、奈良大学が山陵町1500番地に移転したときに情報処理センターが開設されたこと、その情報処理センターには高性能のコンピュータが導入されていること、今後、大学において情報処理教育に拍車がかかるであろうことぐらいでした。今まで何度も人事異動を経験していますが、正直、このように戸惑いがある異動は初めてでした。

コンピューターに関しては、ワープロを少しかじっただけの文系出身の私にとって、一体何をすべきであるのか、何を勉強したらよいのか皆目見当がつかず、思い悩んでいたとき、前任の故村松課長より「センターの先生方は大変熱心で良い先生方です。心配しなくとも大丈夫です。」と励まされ、異動はサラリーマンの宿命と思い、出来る限りやってみようと思い直しました。

情報処理センター事務室に勤務して初めて汎用大型コンピュータ（ＡＣＯＳ430／70）に対面したときの印象は、今も忘れることができません。「これがコンピューターだ」と言わんばかりの巨大にして堂々たる風格を備え、強力な冷暖房装置に守られ、ガラス張りのシステム室に鎮座していました。「俺は何でも出来る」と言っているように感じ、まさに怪物だと圧倒されるだけでした。が、より高度の情報処理教育を実現するために、情報処理センターの先生方が日夜この怪物と格闘されていることを思い浮かべ、私としても、全面的にバックアップすることを心に誓ったものです。

当時、情報処理センターでは毎週一回センター内会議が行われました。情報処理センター事務室に異動してきた当初、私にとって、この会議はまるで宇宙語を聴いているようでした。先生方の話の内容が全く理解できず、課員に説明してもらってようやく理解できる状態でしたので、毎週のセンター内会議が恐ろしくて身の縮む思いをしたものです。しかし、この会議が情報処理センターの飛躍と発展の源であったことは、間違いありません。

情報処理センター事務室での最初の仕事は、教育研究支援統合ネットワークシステム（SS-NET）の構築と、携帯型パソコンを導入し学生に貸与することでした。具体的には、いつでもどこでも学生が身近にパソコンを利用できる環境を整備するために、補助金を申請し、学生に貸し出すノート型パソコン（当時の携帯型パソコンはノート型パソコンであった）を購入することでした。このノート型パソコンの貸し出し制度の評判は上々で、努力

※元奈良大学情報処理センター課長

が報われた気がしました。

さらに教育・研究の体制をより一層強化するためにスーパーコンピュータ CONVEX C3420ES を中心とした新機種購入、総合研究棟増設に伴う第二電算実習室への SUN IPX の移動、第一・第二電算実習室のクライアント機の入れ替え、インターネット接続等の高度情報化社会への対応が諮られ続けているときに事務室に勤務して微々たるにせよ参画出来たことは、今となっては大変嬉しい思いでとなっています。